

## 令和8年度 第1回先進事例見学会の概要

# 和歌山市中央卸売市場

【開催日：令和8年6月30日(火) / 参加人数：19名】

和歌山市中央卸売市場は、昭和49年の開設以来、毎日の生活に欠かすことのできない生鮮食料品（野菜、果実、生鮮水産物、加工水産物）を、日本国内はもとより海外からも集荷して適正な価格をつけ、速やかに分荷し、市民の台所へ届ける役目を担ってきました。消費者には多種多様な生鮮食料品を安定的に適正な価格で供給して市民生活の安定と向上を図り、生産者には継続的で安定的な販売ルートを確保するという重要な役割を果たしています。

今般、和歌山市中央卸売市場の開設者である和歌山市のご厚意により、会員向けに「和歌山市中央卸売市場」を見学させていただくこととなりました。その概要について以下にご報告します。

### ◆ 和歌山市中央卸売市場に関して

和歌山市中央卸売市場は、昭和49年4月和歌山市駅前にあった和歌山市中央市場が周辺の交通混雑緩和等から西浜地区に移転し、全国37番目の中央卸売市場として開場しました。しかし、開場から40年以上たち、建物の耐震性不足や設備の老朽化により危険性を伴う施設となり、建て替えが急務となっていました。そこで、耐震性を強化した安全安心な施設にするため、和歌山市が平成28年に策定した「和歌山市中央卸売市場整備基本計画」に基づく再整備を進め、令和2年に「わかやままるしえ」（総合食品センター棟）、令和4年に「新水産棟」、そして今年（令和8年）「新青果棟」が開場しました。また、元市場用地の一部分に「和歌山市立中学校給食センター」が新設され、市内中学校への給食提供が始まりました。

#### 和歌山市中央卸売市場 概要

- ・所在地 : 和歌山市西浜 1660 番地の 401
- ・開設者 : 和歌山市
- ・敷地面積 : 101,767 m<sup>2</sup> (完成後の予定面積)
- ・延べ床面積 : 青果棟 13,565 m<sup>2</sup>  
水産棟 7,985 m<sup>2</sup>  
総合食品センター棟 2,527 m<sup>2</sup>
- ・計画期間 : 平成 29 年～平成 30 年
- ・工事期間 : 平成 31 年 2 月～令和 9 年 3 月 (予定)
- ・整備方式 : ローリング方式



(青果棟)



(総合食品センター棟)



(水産棟)

今回の施設整備（事業費：約 107 億円）では、下記の様な対応を進めています。

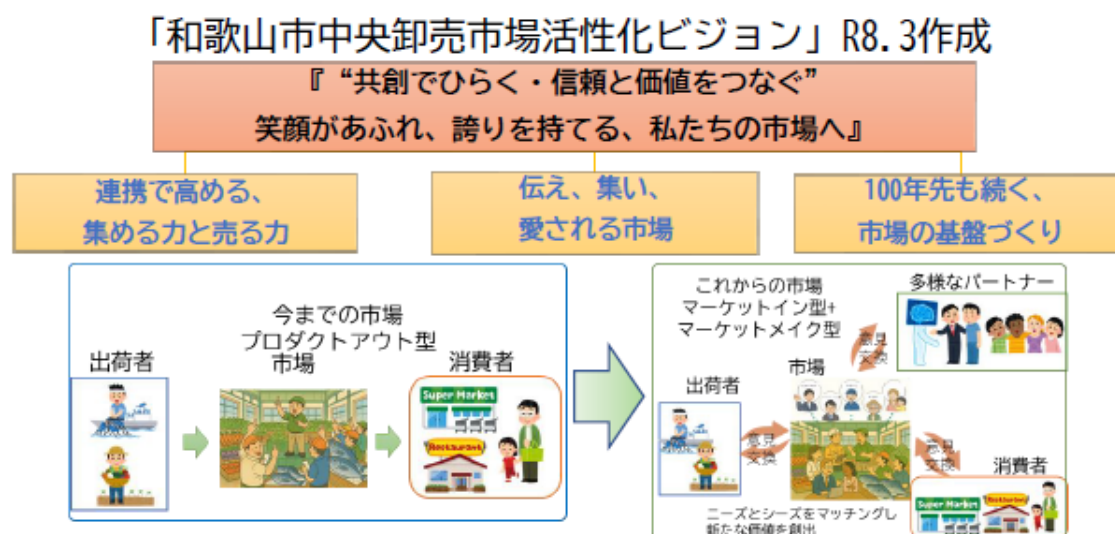
- ① 施設のコンパクト化、青果棟はレーン型レイアウトで整備
- ② 入場業者の事業を止めず施工できるよう、工程を調整
- ③ 現状と同じフラットな施設として整備
- ④ 仲卸入口を再配置
- ⑤ 水産仲卸売り場は 2 階を事務所として利用可能
- ⑥ 青果仲卸売り場は 1 ブースを大幅に拡大し、割り当てられたブース内に事務所を設置

## ◆ 見学会実施状況

### 【挨拶及び高松市中央卸売市場青果棟の概要説明】

はじめに和歌山市中央卸売市場川崎副場長からご挨拶を頂き、続いて生鮮取引電子化推進協議会の事務局を務める公益財団法人食品等持続的供給推進機構の村上会長から和歌山市中央卸売市場関係者の方々への謝辞が述べられました。

和歌山市の西林企画員からは、和歌山市中央卸売市場の整備計画及び施設概要等の説明を頂き、青果棟に関しては仲卸の再編を勧めながら物流動線を一方通行（卸売場から仲卸売り場）にすることで場内の効率化を図っていったこと、総合給食センターの建設や工事内容の見直し等で工事期間は計画より 4 年程遅れてしまったが総工費は抑えられたのではないかと、再整備終了後も和歌山市中央卸売市場を継続して発展させるため令和 8 年 3 月に「和歌山市中央卸売市場活性化ビジョン」を作成したこと、給食センターを誘致することで、元々中央卸売市場の土地だった場所を売却（市の中の部署間）し市場会計を好転させるとともに、場内の業者の納品先としても活用されることになった等のお話がありました。



和歌山市立中学校給食センターの見学では、深日センター長、西出様にご案内いただき、施設内の見学をさせていただきました。和歌山市内 18 校中 16 校に給食を配送していること、最大 8,300 食／日の製造能力があること（現状は 7,300 食／日程度）、中央卸売市場からも給食センターには納品してもらっていること等をお話いただきました。

和歌山市立中学校給食センター 概要

- ・所在地 : 和歌山市西浜 1660 番地の 401（中央卸売市場と同じ敷地）
- ・敷地面積 : 7,971 m<sup>2</sup>
- ・延べ床面積 : 4,164 m<sup>2</sup>
- ・建設事業年度：基本設計・実施設計 令和 6 年 3 月～10 月  
建設工事 令和 6 年 10 月～令和 8 年 3 月  
開 設 令和 8 年 4 月

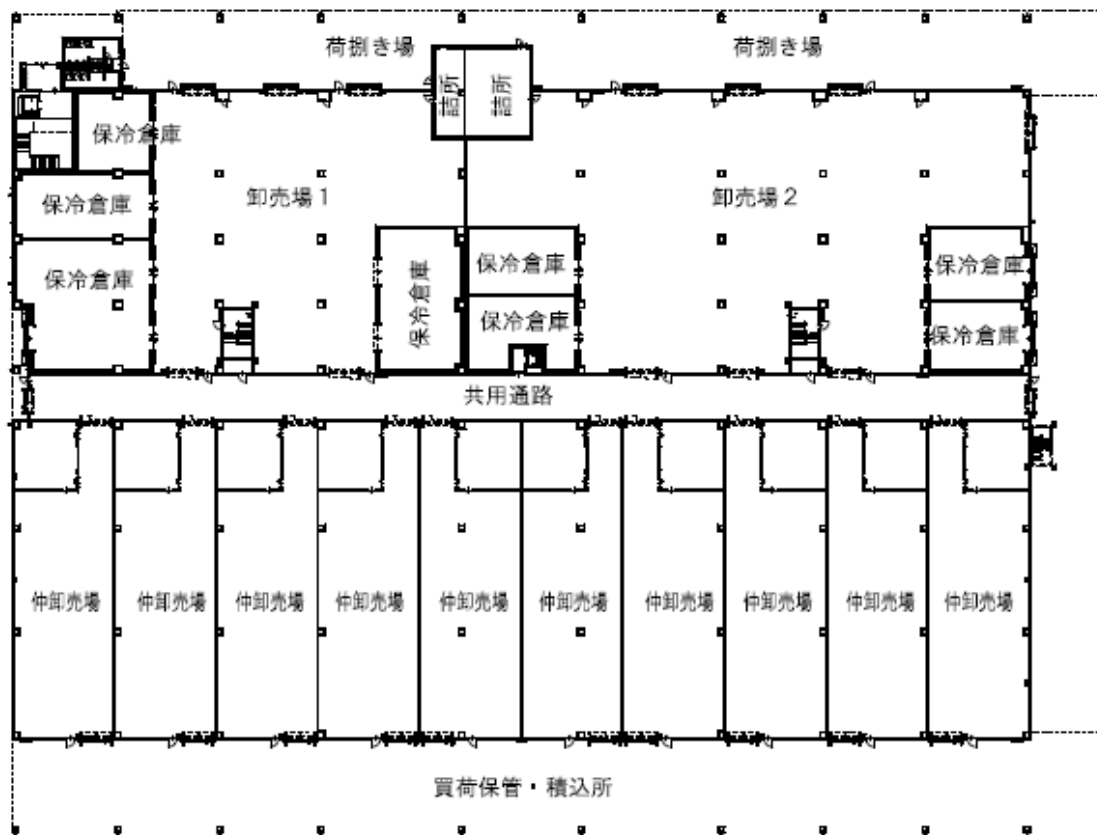


（給食センター）

続いて、和歌山市中央卸売市場の見学では、和歌山市（開設者）及び和歌山市青果仲卸業協同組合理事長の川崎様にご案内いただきました。

水産棟は旧来の卸売市場に多い田の字型、青果棟はレーン型にして物流動線の効率化を図ったこと、閉鎖型市場による定温化が図れていること等のお話を頂きました。

① 青果棟



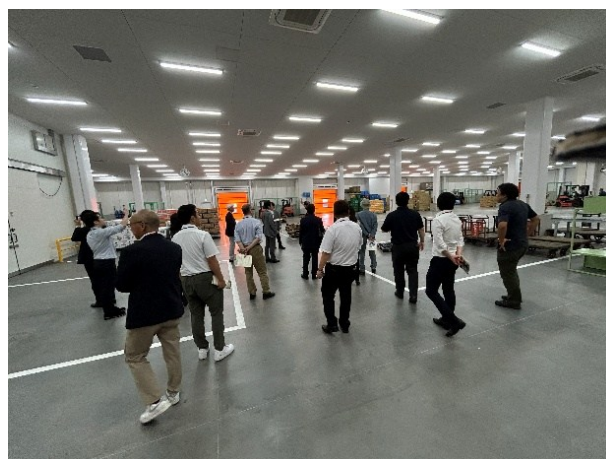
(買荷保管所・積込所)



(共用通路)

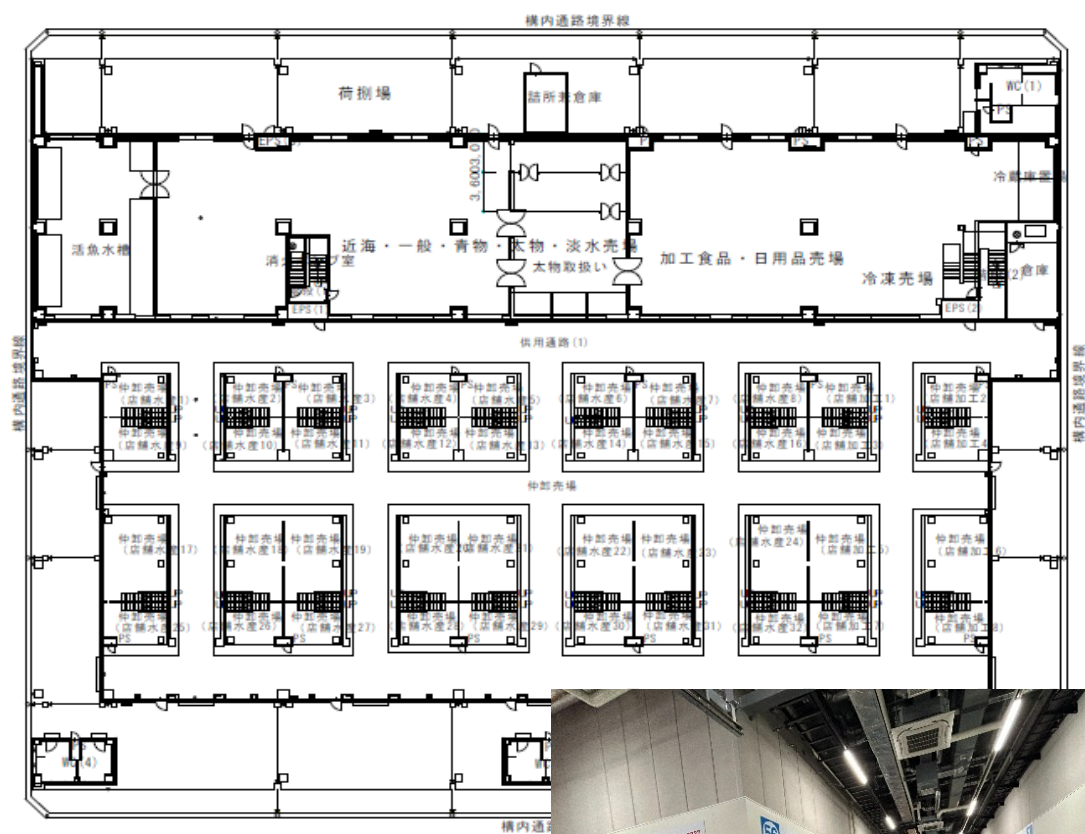
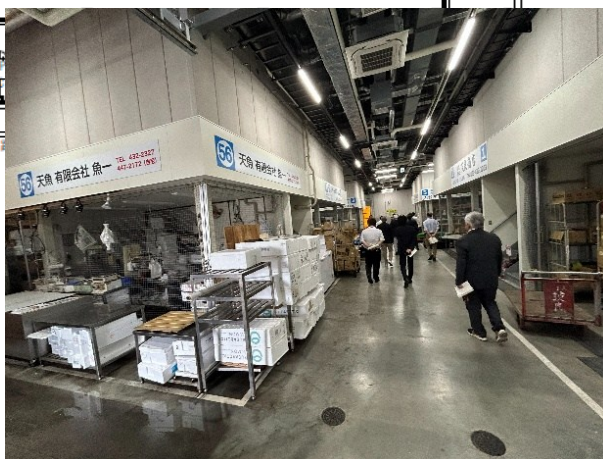


(卸売場)



(仲卸売場)

## ② 水産棟



### 【質疑応答】

質疑応答では、開設者の皆さまから参加者の質問にも丁寧にご回答いただきました。一例をあげると、「監視カメラの設置はどうなっているのか？」という質問に対し、「基本的に開設者が設置し、何かあった場合は必要な部分の映像のみ開示している。卸や仲卸でも各自で導入しているところもある」という回答を、「入荷トラックの荷待ち状態はどうなっているか？」という質問に対し、「以前はあったが、再整備後は動線もスムーズになり、荷待ちしているトラックはあまり見受けられない」という回答を頂きました。



(質疑応答の様子)

今回の先進事例見学会では、コールドチェーンと物流動線に配慮した施設配置を勉強させていただきました。また、施設整備をしたら終わりではなく、引き続き卸売市場が活性化し続けるためにビジョンを制定し、実行していく大切さも学びました。ハード面はもちろん、今後施設整備を行う予定の卸売市場関係者にとって学べる内容が多く（例えば、長期間にわたる施設整備の開設者としての運営方法など）、参加した会員の皆さまの知見向上に役立ったと思っております。

なお、末筆ながら、今回の先進事例見学会にご協力いただきました和歌山市をはじめとする関係者の皆さまに対して、この紙面を借りて心より御礼申し上げます。